3
笑顔を『守る』プログラム

3-1 地域ぐるみで備える「危機管理能力向上」プロジェクト

①将来のイメージ

東日本大震災の発生を受けて、松山市でも、危機管理や消防体制の更なる強化を進めてきました。緊急時に直ちに対応できるよう、普段から繰り返し訓練を続けているほか、市、企業、市民それぞれが、十分な資材や食糧を備蓄しているため、災害が発生しても誰もが落ち着いて行動できます。また、ライフライン*の整備や市有施設の耐震化も進められており、特に子どもたちが一日の大部分を過ごし、また災害発生時には避難所となる学校施設については、耐震化工事が完了しています。

市民の防災意識も高く、家族と話し合う機会をもつ市民が増えているため、ほとんどの市民が、最寄りの避難場所を知っていることはもちろん、災害時の家族との連絡の取り方を決めています。各地域で結成されている自主防災組織*の活動も、地域を問わず活発で、避難訓練や避難所開設訓練など、様々な訓練を定期的に実施しており、お年寄りや体の不自由な方も含め、訓練に参加する住民が大幅に増えているため、お互いに助け合う体制が構築されています。また、企業や学校でも、災害に備えた準備や防災リーダーの養成などが進んでおり、まち全体で災害に備えています。

さらに、医療機関などの協力によって、平時から万全の救急医療体制が維持されているほか、市民生活のみならず、医療や福祉、企業活動など、あらゆる場面において欠くことのできない水については、節水をはじめ、雨水利用やかん養林の整備など、節水型都市づくりの取り組みによって水資源管理の充実が図られており、新規水源の開発とあわせ、安定した水の供給に向けた取り組みが着実に進められています。

②主な取り組み

- 危機管理体制の強化
- 避難・備蓄対策の推進
- 市有施設等の耐震化
- ライフラインの整備
- 自主防災・企業防災等の強化
- 消防・救急・救助体制の強化
- 救急医療体制の維持
- 水資源管理の充実
- 新規水源の開発

③将来のひとコマ

松山さん一家は、松山市の総合防災訓練に参加するため、会場の小学校に向かっています。「お母さんは、地震が起きたとき、どこに避難すればいいか知っとる？」笑太（しょうた）くんが尋ねました。愛子さんは答えます。「もちろん知っとるよ。笑太が通いよる小学校やろ。この間まで耐震化の工事をしよったよね。」

「工事は、もう終わったよ。」笑太くんが言います。「やけん、もし地震が起きても、学校におったら怖くないんよ。それに、もし地震が起こったらどうしたらいいか、いつも先生が教えてくれよるけん、僕はあわてんよ。」

「もし災害が起きても困らんように、準備しとかんといかんね。」松山さんも話に加わります。「会社にも防災士*の資格をもっとる人が何人かおるけん、いろいろ教えてもらいよんよ。うちも必要なものは備蓄しとるつもりやけど、水とか食糧は今の量やったら何日ぐらいもつんかなあ。」

会場に着くと、松山さんが住む地域の自主防災組織も参加していて、役員の人が話しかけてきました。「よう来てくれたねえ。今から消火訓練をやるけん、笑太くんと幸子（さちこ）ちゃんもおいでや。」消防士さんに消火器の使い方を教えてもらう笑太くんと幸子ちゃんを見守りながら、松山さん夫婦は、災害が起きたときの連絡方法について話し合っていました。

お昼には、炊き出し訓練で調理されたカレーを食べました。「お水やガスがないと調理もできんし、ライフラインの確保は大事やね。」愛子さんが言いました。

カレーを食べたあとは、ＡＥＤ*講習を受けたり、バケツリレーを体験したり、救護所の様子を見学したりと、会場中を見てまわり、帰り道では、来月ある地区の防災訓練にも参加することを約束しました。

3-2 病気の予防や生活習慣改善による「健康増進」プロジェクト

①将来のイメージ

予防医療についての様々な啓発活動が行われており、また健康診断などは、地域の受けやすい場所で実施されています。その結果、健康診断や各種のがん検診・予防接種を受ける人が増加し、生活習慣病をはじめとする疾病などの予防や早期発見・早期治療につながっており、多くの人が健康的な日常生活を送っています。特に、生活習慣病に対しては、保健所が中心となって、食事や運動をとおした生活改善に関するアドバイスを行っており、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導によって、健康に対する関心が高まるとともに、知識も身につき、生活改善が必要な人たちが意欲的に取り組んでいます。

また、健康な生活を維持するためには、定期的な運動が効果的であり、各地域で高齢者の健康づくり教室が開催されるとともに、自主的な健康づくり活動が活発に行われています。特に、誰もが身近な場所でスポーツを楽しめる設備が充実しているとともに、地域におけるスポーツ指導者の育成も進んでいるほか、同じスポーツを愛好する人たちが、様々な地域で年齢に関係なく交流を深めています。さらに、整備された歩道では、家族や近所の友達などと一緒におしゃべりをしながら、ウォーキングをしている人の姿が多く見られます。

②主な取り組み

- 予防医療の推進
- 生活習慣の改善
- 地域スポーツ活動の推進
- 高齢者の健康づくり

③将来のひとコマ

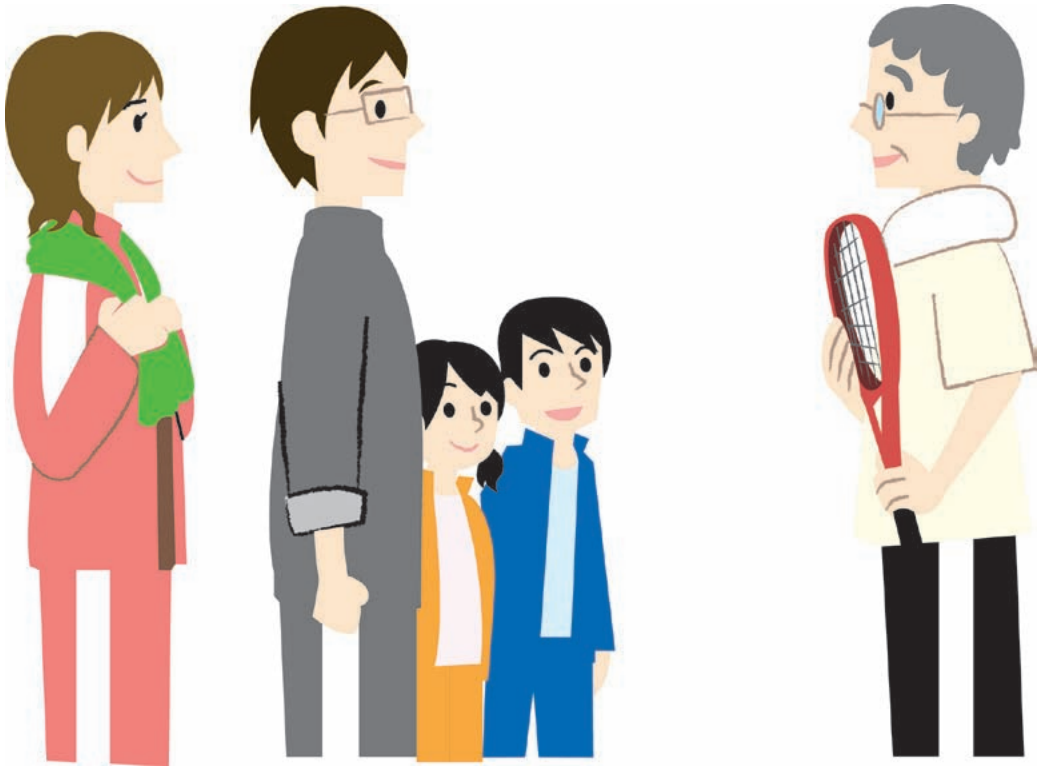
仕事から帰った松山さんが、食事の支度をしている愛子さんに言いました。「今日から晩ごはんは軽めにしとこうわい。」愛子さんは驚いて尋ねました。「いきなりどしたん。今までそんなこと言よらんかったのに。」

「健康診断の結果が出たんよ」松山さんは答えました。「見た目にはあまりわからんのやけど、内臓脂肪が多いんやって。去年はそんなことなかったんやけどね。」

「最近、夜遅くにインターネットをしながら、おやつを食べよるけんよ。食事はバランスが大事なんよ。」愛子さんにそう言われて、松山さんは少ししょんぼりしています。「それに、食事だけじゃなくて、運動も必要やね。季節もええし、休みの日にみんなで散歩でもしようかねえ。」

その週末、松山さん一家は散歩に出かけました。松山さんは、「ウォーキングしよる人もたくさんおるなあ。あ、あそこに新しい喫茶店ができとるよ。」と景色を眺めています。「そうや、天気もええし、石手川まで行ってみよか。」

石手川沿いのテニスコートのそばを通りかかった時、「松山さーん」と呼ぶ人がいました。お隣に住む忽那（くつな）さんでした。忽那さんは若い頃からずっとテニスを続けているそうです。「定年退職してからは時間があるけん、テニスばっかりしよるんよ。今日はサークル仲間との練習会なんよ。」テニスコートの中では、いろいろな年代の人がテニスを楽しんでいます。忽那さんは、「笑太（しょうた）くんも幸子（さちこ）ちゃんも、もう少し大きくなったらおいでや。僕が教えてあげるけんね。」と言ってくれました。



3-3 誰もが自立し個性を認め合う「いきいきと暮らせるまちづくり」プロジェクト

①将来のイメージ

障がいのある人や高齢者をはじめ、全ての市民がお互いの個性を認め合い、またそれぞれの能力を十分に発揮しながら、いきいきとした生活を送っています。

その中では、就労を希望する人が職業訓練を受けられる場所や、就職先となる企業とのマッチングを行う窓口があります。生活に対する不安や悩みを相談できる窓口も充実しており、受け皿となる地域の意識も高く、地域の中で自立した生活を送っています。また、就職先となる企業の意識も高く、受け入れるための環境整備も整っているので、雇用も進んでいます。

シルバー人材センターをはじめとする多種多様な働く場や生涯学習の場に、多くの高齢者が積極的に参加しており、生きがいをもって元気に暮らすための社会参加の場となるだけでなく、これまでの長い人生の中で身につけてきた経験や知識、技能などが若い世代に引き継がれています。

そして、生活に困窮している人たちに対しては、セーフティネット*はもちろん、就労支援をはじめとする様々な自立支援プログラムが展開されているので、自立した生活を送ることができています。

また、いじめや虐待の防止に関しては、松山市子ども総合相談窓口だけでなく、学校や病院、警察、民生児童委員など、子どもの見守りに関わる主体が一丸となって、早期発見・早期解決に取り組むとともに、こころのケアにも取り組んでおり、子どもたちは悩みを一人で抱え込むことなく、のびのびと心健やかに成長しています。

②主な取り組み

- **障がい者・高齢者の社会参加・就労支援・相談支援**
- **生活保護受給者等の生活困窮者対策**
- **いじめ・虐待対策といのちの相談の推進**

③将来のひとコマ

愛子さんの職場では、経理を担当する職員として、道後さんという男性を新規採用しました。道後さんは、子どもの頃の交通事故で足が不自由になり、車いすで生活しています。

愛子さんの職場では、2年前にバリアフリー化の工事をしていたので、道後さんの採用にあたっても、スムーズに受け入れることができました。

初日のお昼休みに、道後さんを囲んでみんなでお昼ごはんを食べました。道後さんは、ご両親と同居しているそうです。「うちの両親は高齢なんですが、まだまだ元気ですよ。父は昔、造園業を営んでいたんですが、今はその技術を生かしたいと、シルバー人材センターに登録して、公園の花壇の手入れや植木の剪定（せんてい）などの仕事をしよるんですよ。センターに登録している人は、みんな自分の得意分野を生かしながら仕事をすることで、生きがいを感じているみたいですね。」

「うちの母も75歳なんやけど、今も公民館で郷土料理の講師をしよるんよ。」愛子さんが言いました。「講師の仕事にやりがいを感じとるみたいやし、生徒さんたちとの交流もあるけん、とても楽しそうにしとるよ。」

「人と接する機会が多いと、いろんな刺激を受けますよね。仕事があると、生活に張り合いも出ますし。」道後さんも愛子さんの話にうなずきます。「今は、お年寄りだけじゃなく、障がいのある人もどんどん社会に出よります。特に松山は暮らしやすいですね。みんながいきいきと暮らせるまちって、素晴らしいじゃないですか。」道後さんはそう言って、ニコニコと笑っていました。